

総目次

第1編 道路設計

第2編 橋梁設計

第3編 トンネル設計

第4編 維持修繕

第5編 道路付属物

第6編 参考資料

目 次 【第 1 編 道路設計】

第 1 章 道路設計

1 設計計画一般（標準）	1-1-1
1-1 道路事業の流れ	1-1-1
1-1-1 道路機能の分類	1-1-1
1-2 設計計画に必要な事前調査等	1-1-1
1-3 道路計画の手順	1-1-3
1-3-1 道路設計の分類	1-1-3
1-3-2 道路設計（計画，設計）の各段階の内容	1-1-4
1-3-3 概略設計の内容	1-1-4
1-3-4 予備設計の内容	1-1-5
1-3-5 道路計画，設計，施工の手順	1-1-6
1-4 路線計画に必要な調査	1-1-7
1-5 路線選定の決定要因	1-1-8
1-5-1 技術的要因	1-1-8
1-5-2 経済的要因	1-1-8
1-5-3 社会的要因	1-1-8
1-6 路線選定，コントロールポイントの選定	1-1-9
1-6-1 基本方針	1-1-9
1-6-2 コントロールポイントの選定	1-1-9
1-7 関係機関との協議	1-1-11
1-7-1 河川協議	1-1-11
1-7-2 鉄道協議	1-1-13
1-7-3 交差道路	1-1-14
1-7-4 公安委員会との協議	1-1-14
1-7-5 その他の協議	1-1-15
1-8 道路法第 24 条による工事承認基準	1-1-15
1-9 道路事業に係る諸手続きについて	1-1-16
1-9-1 公共測量手続	1-1-16
1-9-2 建設リサイクルに関する手続き	1-1-18
1-9-3 保安林解除等	1-1-19
1-9-4 農業上の土地利用及び農業振興施策との調整	1-1-27
1-9-5 公有水面埋立	1-1-28
1-9-6 埋蔵文化財調査	1-1-37

1-9-7	土壌汚染対策法に基づく土地の形質変更の届出	1-1-43
2	幾何構造設計	1-1-45
2-1	幾何構造設計一般	1-1-45
2-1-1	道路構造令の趣旨と目的	1-1-45
2-1-2	道路構造令の適用範囲	1-1-46
2-1-3	一般的技術基準の意味	1-1-46
2-1-4	道路構造令の地方道への適用	1-1-47
2-1-5	地方自治体における道路構造基準について	1-1-47
2-2	道路構造に関する基本的考え方	1-1-50
2-2-1	多様な機能の重視	1-1-50
2-2-2	地域に応じた弾力的な基準の運用	1-1-51
2-3	道路の計画・設計の手順	1-1-51
2-3-1	道路構造決定の流れ	1-1-51
2-3-2	道路の特性に応じた必要な道路の機能の明確化	1-1-52
2-3-3	機能確保のための道路構造の決定	1-1-53
2-4	道路構造令の運用の考え方	1-1-54
2-4-1	諸規定の性格	1-1-54
2-4-2	弾力的な運用の場面	1-1-56
2-4-3	本県における弾力的な運用（県道の構造の技術的基準等に関する条例）	1-1-56
2-5	横断面の構成について	1-1-57
2-5-1	主な横断面構成要素の基本的な考え方	1-1-57
2-5-2	横断面の構成要素とその組み合わせ	1-1-58
2-5-3	横断面決定の流れ	1-1-60
3	歩道の一般構造に関する基準	1-1-61
3-1	総則	1-1-61
3-1-1	国道における整備方針	1-1-63
3-1-2	県道における整備方針	1-1-64
3-2	歩道の構造	1-1-65
3-3	横断歩道等に接続する歩道の部分等の構造	1-1-67
3-4	車両乗入部の構造	1-1-81
3-4-1	乗入部の設置例	1-1-83
3-5	既設のマウントアップ形式の歩道における対応	1-1-88

3-6	自転車歩行者道の構造	1-1-89
3-7	その他留意事項	1-1-89
4	平面交差	1-1-90
4-1	適用範囲	1-1-90
4-2	設計方針	1-1-90
4-2-1	平面交差点の幾何構造と交通制御の整合性	1-1-90
4-2-2	計画設計の手順	1-1-91
5	取付道路	1-1-92
5-1	取付道路	1-1-92
5-1-1	標準構造	1-1-92
5-1-2	取付道路の舗装範囲	1-1-93
5-1-3	取付道路の舗装区分	1-1-93
6	副道及び側道	1-1-94
6-1	舗装構成	1-1-94
6-2	副道及び側道等の舗装(日本道路協会 道路構造令の解説と運用 参照)	1-1-94
7	交通安全施設	1-1-95
7-1	交通安全事業	1-1-95
7-1-1	工種一覧	1-1-95
7-2	自転車横断帯	1-1-96
7-2-1	適用基準	1-1-96
7-2-2	自転車横断帯について	1-1-96
7-3	中央帯及び車両停車帯	1-1-98
7-3-1	適用基準	1-1-98
7-3-2	バス停の位置	1-1-98
7-3-3	バス停の構造	1-1-98
7-3-4	舗装構造	1-1-99
7-4	付加追越車線	1-1-99
7-4-1	適用基準	1-1-99
7-4-2	付加追越車線	1-1-99
7-4-3	ゆずり車線	1-1-99
7-4-4	標示板	1-1-99

7-5	登坂車線	1-1-99
8	現道残部の処理	1-1-100
8-1	道路旧道敷地の処理	1-1-100
9	用地幅杭及び用地境界杭の設置	1-1-101
9-1	用地杭の設置	1-1-101
9-1-1	用地杭の構造及び設置の時期	1-1-101
9-1-2	切土部における用地杭の設置	1-1-101
9-1-3	盛土部における用地杭の設置	1-1-102
9-1-4	市街地における用地杭の設置	1-1-103
9-1-5	切土、盛土のない部分における用地杭の設置	1-1-103
9-1-6	暫定施工の場合の用地杭の設置	1-1-103
9-1-7	橋梁、トンネルにおける用地杭の設置	1-1-104
9-2	用地境界杭の設置方法	1-1-104
9-2-1	用地境界杭の設置時期	1-1-104
9-2-2	用地境界杭の構造	1-1-105
10	暫定施工	1-1-107
11	道路の区域決定（変更）及び供用開始の手続きについて	1-1-109
11-1	区域決定（変更）及び供用開始手続きの位置付け	1-1-109
11-2	区域決定（変更）（道路法第18条第1項）	1-1-110
11-3	供用開始（道路法第18条第2項）	1-1-112

第2章 土工

1 適用	1-2-1
2 道路土工の基本的考え方	1-2-2
2-1 道路建設の流れと土工計画	1-2-2
3 土及び岩の分類	1-2-3
3-1 土の分類	1-2-3
3-2 岩の分類	1-2-3
3-3 土量の変化率	1-2-4
4 道路土工の構成	1-2-5
4-1 各部の名称及び標準構成	1-2-5
4-2 名称の解説及び機能	1-2-5
4-3 道路土工構造物の要求性能	1-2-8
4-4 長大切土と高盛土	1-2-11
5 切土	1-2-12
5-1 切土調査手法	1-2-12
5-2 標準横断図	1-2-14
5-3 切土設計の基本（切土の要求性能）	1-2-14
5-4 切土のり面勾配	1-2-17
5-5 特に注意の必要な切土	1-2-18
5-6 切土小段	1-2-21
5-7 のり肩	1-2-22
5-8 （参考資料）労働安全衛生規則の抜粋	1-2-23
5-9 切土のり面の安定計算	1-2-24
6 床掘	1-2-25
6-1 床掘勾配等	1-2-25
7 切土のり面の保護工	1-2-27
7-1 のり面保護工の種類と目的	1-2-27
7-2 のり面保護の選択	1-2-27
7-3 のり面保護工の選定フロー	1-2-28
7-4 植生によるのり面保護工	1-2-29

7-5	屋久島地区及び奄美大島, 徳之島地区におけるのり面保護	1-2-30
7-6	のり面排水工	1-2-30
7-7	構造物工によるのり面保護工	1-2-32
7-7-1	モルタル及びコンクリート吹付工	1-2-32
7-7-2	プレキャスト枠工	1-2-33
7-7-3	吹付枠工	1-2-33
7-7-4	現場打コンクリート枠工	1-2-34
7-7-5	アンカー工	1-2-34
8	環境・景観対策	1-2-35
8-1	環境対策	1-2-35
8-2	景観対策	1-2-36
9	斜面崩壊対策	1-2-37
9-1	設計の基本	1-2-37
9-2	斜面崩壊対策	1-2-40
9-3	落石・岩盤崩壊対策	1-2-40
9-4	地すべり対策・土石流対策	1-2-44
10	盛土	1-2-45
10-1	盛土調査手法	1-2-45
10-2	標準横断図	1-2-45
10-3	盛土設計の基本(盛土の要求性能)	1-2-46
10-4	盛土の安定	1-2-49
10-5	盛土のり面勾配	1-2-51
10-6	盛土小段	1-2-51
10-7	盛土材料	1-2-53
10-8	土羽土	1-2-53
10-9	排水処理	1-2-54
10-10	締固め管理基準値	1-2-55
10-11	軟弱地盤上の盛土	1-2-55
10-12	補強盛土・軽量盛土	1-2-56
10-13	盛土のり面におけるのり面保護工	1-2-57
10-14	高盛土	1-2-57
10-14-1	設計施工上の留意事項	1-2-57
10-15	舗装工前の路側排水	1-2-58

11 土工定規	1-2-59
11-1 盛土部	1-2-59
11-2 切土部	1-2-59
11-3 片切片盛部	1-2-60
12 段切り, 片切り, 片盛り, 切盛境及び腹付盛土	1-2-61
12-1 段切り及び片切り, 片盛り	1-2-61
12-2 切盛境の摺付け	1-2-61
12-3 腹付盛土	1-2-62
13 道路土工量の算出	1-2-63
13-1 曲線区間における道路土工量の算出方法	1-2-63
14 盛土と構造物の接合部の施工	1-2-65
14-1 盛土の沈下と構造物	1-2-65
14-2 裏込め及び埋戻し	1-2-66
15 維持管理を考慮したのり面対策	1-2-69
15-1 路肩の構造	1-2-69
16 軟弱地盤対策	1-2-70
16-1 総論	1-2-70
16-1-1 概要	1-2-70
16-1-2 判定基準等	1-2-70
16-2 軟弱地盤の問題点, 検討	1-2-73
16-2-1 軟弱地盤の問題点	1-2-73
16-2-2 軟弱地盤の検討	1-2-73
16-3 軟弱地盤の対策工法, 留意事項	1-2-79
16-3-1 対策工法	1-2-79
16-3-2 留意事項	1-2-80
16-4 各論	1-2-81
16-4-1 深層混合処理工法	1-2-81
17 記録の保存	1-2-85
17-1 記録の活用	1-2-85

第3章 舗装

1 舗装一般（標準）	1-3-1
1-1 舗装の設計	1-3-2
1-1-1 アスファルト舗装を採用する場合	1-3-2
1-1-2 コンクリート舗装の採用を検討する場合	1-3-2
1-2 舗装の構成	1-3-3
1-2-1 各層の役割	1-3-3
1-2-2 舗装の構成	1-3-4
1-3 本線舗装とランプ道路舗装の舗装区分	1-3-5
1-3-1 ランプ道路の舗装区分	1-3-5
1-3-2 取付道路の舗装区分	1-3-5
1-4 舗装の設計期間	1-3-6
1-5 舗装計画交通量	1-3-6
1-6 舗装の性能指標	1-3-7
1-6-1 舗装の性能指標の値	1-3-7
1-7 設計条件の設定に必要な調査	1-3-8
1-8 路面設計	1-3-9
1-8-1 表層材料の決定	1-3-10
1-8-2 表層厚の決定	1-3-10
1-8-3 路面設計の留意点	1-3-10
2 アスファルト舗装	1-3-11
2-1 アスファルト舗装の構造設計	1-3-11
2-1-1 アスファルト舗装の設計	1-3-11
2-1-2 アスファルト舗装の材料	1-3-11
2-1-3 アスファルト舗装の施工	1-3-11
2-1-4 舗装厚の設計	1-3-12
2-1-5 舗装構成の決定例	1-3-16
2-1-6 標準アスファルト舗装構成	1-3-16
2-2 重交通道路における耐流動対策	1-3-21
2-3 路肩部等の詳細	1-3-23
2-3-1 路肩の構造	1-3-23
2-3-2 路肩部	1-3-24
2-3-3 緑地帯	1-3-25
2-3-4 高級舗装以外の1車線道路の路肩の構造	1-3-25

3	コンクリート舗装	1-3-26
3-1	コンクリート舗装の種類と特徴	1-3-26
4	機能別の舗装	1-3-27
4-1	すべり止め舗装	1-3-27
4-1-1	すべり止め舗装の採択基準	1-3-27
4-1-2	すべり止め舗装の工法	1-3-28
4-2	その他の機能別の舗装	1-3-28
4-3	材料別の舗装	1-3-29
4-4	構造別の舗装	1-3-31
5	歩道および自転車道等の舗装	1-3-32
5-1	一般的なアスファルト舗装	1-3-32
5-2	透水性舗装	1-3-32
5-2-1	構造	1-3-32
5-2-2	材料	1-3-33
5-3	インターロッキング舗装	1-3-34
5-4	コンクリート舗装	1-3-34
6	路盤	1-3-35
6-1	下層路盤	1-3-35
6-2	上層路盤	1-3-36
6-3	上層路盤に用いる安定処理工法	1-3-37
6-4	不陸整正	1-3-37
6-5	改良工事について	1-3-38
6-6	粒調 Fe 石灰路盤材の使用について	1-3-38
7	路床	1-3-39
7-1	設計 CBR	1-3-39
7-1-1	路床土の調査	1-3-39
7-1-2	路床の評価	1-3-41
7-1-3	構築路床	1-3-44
7-2	軟弱な路床土	1-3-46
7-2-1	置換工法	1-3-46
7-2-2	安定処理工法	1-3-49
7-2-3	サンドイッチ舗装工法	1-3-50

8 その他	1-3-51
8-1 岩盤上の舗装	1-3-51
8-1-1 横断方向に岩盤がある場合	1-3-51
8-1-2 縦断方向に岩盤がある場合	1-3-51
8-1-3 歩道部が岩盤の場合	1-3-52
8-2 現道嵩上げ高が大きい場合の本線の舗装	1-3-52
8-3 停車帯の構造	1-3-52
8-4 バス停車帯(原則第1種, 第2種, 第3種第1級の道路), 非常駐車帯	1-3-52
8-5 登坂車線, 付加追越車線の構造	1-3-52
8-6 その他基本幅員より広い部分の舗装	1-3-53
8-7 取付道路の舗装構造	1-3-53
8-8 車両乗入部の舗装構成	1-3-53
8-9 大型車両出入口等の舗装	1-3-54
8-10 区画線	1-3-55
8-11 道路の曲線部拡幅	1-3-57
8-12 アスカーブの設置	1-3-57
8-13 環境の保全と改善	1-3-57
9 参考資料	1-3-59
9-1 簡易舗装における標準舗装構成	1-3-59
9-2 設計期間10年, 信頼性90%とした場合の舗装構成表(参考)	1-3-62

第4章 擁壁

1 適用基準	1-4-1
2 一般	1-4-2
3 擁壁設計の考え方	1-4-2
4 計画	1-4-3
4-1 擁壁の種類	1-4-3
4-2 擁壁工の基本	1-4-3
4-3 基本計画	1-4-4
4-4 調査および検討事項	1-4-5
4-5 構造形式の選定	1-4-5
4-5-1 構造形式選定上の目安	1-4-5
4-5-2 構造形式の設定手順	1-4-5
4-6 基礎形式の選定	1-4-8
4-7 土質・地盤調査	1-4-11
5 構造設計上の留意事項	1-4-12
5-1 擁壁設計の基本	1-4-12
5-1-1 擁壁の要求性能	1-4-12
5-1-2 性能の照査	1-4-13
5-2 土木構造物標準設計の運用	1-4-13
5-2-1 標準設計を使用する際の留意点	1-4-13
5-2-2 標準設計における地震の影響	1-4-14
5-3 基礎工設計の留意点	1-4-15
5-3-1 置換え基礎	1-4-15
5-3-2 杭基礎	1-4-17
6 設計条件	1-4-18
6-1 設計諸定数の基本的な考え方	1-4-18
6-2 設計条件	1-4-19
6-3 配筋規定	1-4-22
7 滑動に対する安全性の確保	1-4-23

8 各種擁壁の設計	1-4-24
8-1 コンクリートブロック積（張）及び石積擁壁	1-4-24
8-1-1 コンクリートブロック積（張）擁壁	1-4-24
8-1-2 大型ブロック積擁壁	1-4-26
8-2 コンクリート擁壁	1-4-27
8-2-1 基礎根入れ深さ	1-4-27
8-2-2 擁壁に防護柵を設置する場合の設計について	1-4-28
8-2-3 目地	1-4-30
8-3 片持ち梁式擁壁	1-4-33
8-3-1 構造細目	1-4-33
8-3-2 配筋規定	1-4-33
8-3-3 鉄筋かぶり	1-4-34
8-4 井げた組擁壁	1-4-34
8-5 もたれ式擁壁	1-4-34
8-5-1 適用の範囲	1-4-34
8-5-2 擁壁自体の安定性の照査	1-4-34
8-6 補強土擁壁	1-4-36
8-6-1 種類	1-4-36
8-6-2 特徴	1-4-36
8-7 プレキャストコンクリート擁壁	1-4-37
8-8 軽量材を用いた擁壁	1-4-37
8-9 その他の特殊な擁壁	1-4-38
8-9-1 山留め式擁壁	1-4-39
8-9-2 深礎杭式擁壁	1-4-39
8-9-3 繊維補強土擁壁	1-4-39
8-10 設計条件の明記	1-4-40

第5章 排水

1 適用基準	1-5-1
2 排水の目的	1-5-1
3 排水施設の区分と名称（標準）	1-5-2
4 排水の種類	1-5-3
5 設計にあたっての基本事項	1-5-4
5-1 流出量の算定	1-5-4
5-2 降雨確率年	1-5-5
5-3 地域別降雨強度	1-5-6
5-3-1 降雨強度	1-5-6
5-4 集水面積	1-5-11
5-5 流出係数	1-5-12
5-6 流出量の例題	1-5-13
5-7 通水量	1-5-17
5-7-1 排水断面の決定	1-5-17
5-7-2 流速の許容範囲	1-5-18
5-7-3 断面の決定	1-5-18
5-8 排水施設の勾配と断面	1-5-18
5-8-1 勾配	1-5-18
5-8-2 断面	1-5-18
6 表面排水施設の設計（標準）	1-5-19
6-1 路肩排水	1-5-19
6-2 のり面排水	1-5-19
6-2-1 小段排水工等	1-5-19
6-3 横断管渠	1-5-21
6-4 排水施設の基礎構造	1-5-22
6-5 その他	1-5-22
6-5-1 取付管，排水管およびマンホール	1-5-22
6-5-2 側溝ふたの採択基準	1-5-23
6-5-3 素掘側溝（参考）	1-5-23
6-5-4 路側擁壁とL型側溝（参考）	1-5-23

6-5-5	石積とふた付L型側溝	1-5-23
6-5-6	バリアフリーを考慮した排水計画	1-5-23
7	地下排水施設の設計	1-5-24
7-1	路側の地下排水溝	1-5-24
7-2	地下排水管（有孔管及び透水管）	1-5-25
8	構造物排水施設	1-5-26
8-1	地下道	1-5-26
8-2	裏込排水	1-5-26
9	パイプカルバートの設計	1-5-26
9-1	設計上の注意事項	1-5-26
9-2	ヒューム管（RC, PC）の使用選定	1-5-27
9-3	基礎形式選定図の使用にあたって	1-5-27

第6章 ボックスカルバート

1 適用基準	1-6-1
2 カルバート一般	1-6-2
2-1 定義	1-6-2
2-2 従来型カルバート	1-6-2
2-2-1 従来型カルバート	1-6-2
2-2-2 従来型カルバートの適用範囲	1-6-3
2-3 従来型以外のカルバート等	1-6-4
2-4 カルバート工の基本的な考え方	1-6-4
2-5 調査・計画	1-6-5
2-6 構造形式の選定	1-6-5
3 基礎地盤対策の選定	1-6-7
3-1 直接基礎	1-6-7
3-2 軟弱地盤にカルバートを設置する場合	1-6-8
3-3 地表近くに軟弱層がある場合	1-6-8
3-4 杭基礎	1-6-8
3-5 支持層が傾斜している場合やカルバートの縦断方向で極端に支持力の異なる地盤がある場合	1-6-9
3-6 プレローディング工法（参考）	1-6-10
3-6-1 プレロードの高さ及び範囲	1-6-10
3-6-2 放置期間	1-6-10
4 設計に関する一般事項	1-6-11
4-1 設計の基本	1-6-11
4-2 地震動の作用に対する照査方法	1-6-14
4-3 地盤の支持力	1-6-14
4-4 許容応力度	1-6-15
4-4-1 許容応力度の割増し	1-6-15
4-4-2 コンクリートの供用応力度	1-6-15
4-4-3 鉄筋の許容応力度	1-6-16
4-5 鉄筋コンクリートの構造細目	1-6-17
4-6 配筋方法	1-6-17
4-6-1 配筋仕様	1-6-17
4-6-2 配筋規定	1-6-17

4-6-3	ハンチの省略	1-6-19
4-7	耐久性の検討	1-6-19
4-7-1	塩害に対する検討	1-6-19
4-7-2	塩害の影響を考慮したかぶり	1-6-20
5	剛性カルバートの設計	1-6-21
5-1	従来型剛性ボックスカルバートの設計	1-6-21
5-1-1	設計断面	1-6-21
5-1-2	土かぶり	1-6-21
5-1-3	照査項目	1-6-22
5-2	設計に用いる荷重	1-6-22
5-3	土圧	1-6-23
5-4	活荷重	1-6-24
5-5	荷重の組合せ	1-6-26
5-6	地震の影響	1-6-27
6	内空断面	1-6-28
6-1	道路用カルバート	1-6-28
6-2	水路用カルバート	1-6-29
6-3	軟弱地盤上のカルバート	1-6-29
7	構造細目	1-6-30
7-1	継手	1-6-30
7-2	地覆およびウイング	1-6-32
7-2-1	地覆の形状	1-6-32
7-2-2	ウイングの形状	1-6-32
7-2-3	パラレルウイングの計算	1-6-33
7-2-4	ウイング配筋	1-6-33
7-3	止水壁	1-6-34
7-4	既設ボックスカルバート継足部の継手構造（参考）	1-6-34
7-5	軟弱地盤用段差継手	1-6-35
8	背面の設計（参考）	1-6-36
8-1	裏込め工	1-6-36
8-2	排水工	1-6-37
8-3	踏掛版	1-6-38

9 傾斜のつくボックスカルバート	1-6-39
10 ボックスカルバートの上げ越し（参考）	1-6-40
10-1 残留沈下量	1-6-40
10-2 沈下量の推定	1-6-40
10-3 上げ越し量	1-6-40
11 プレキャストボックスカルバート	1-6-41
11-1 プレキャストボックスカルバートの設計	1-6-41
12 アーチカルバート	1-6-43
12-1 土被りと部材断面	1-6-43
12-2 設計に用いる荷重	1-6-43
12-3 断面力の計算	1-6-44
13 記録の保存	1-6-45
13-1 設計条件の明記	1-6-45
13-2 記録の活用	1-6-45
13-3 記録の例	1-6-46
13-4 参考	1-6-47

第7章 1.5車線の道路整備（案）

1 総則	1-7-1
1-1 1.5車線の道路整備とは	1-7-1
1-2 導入の背景	1-7-1
1-3 整備方針	1-7-1
1-3-1 整備区間・方法	1-7-1
1-3-2 住民への説明と理解	1-7-2
1-3-3 整備効果の検討	1-7-2
2 技術的基準	1-7-2
2-1 対象区間	1-7-2
2-2 適用基準	1-7-2
2-3 設計区間	1-7-2
2-4 道路の区分及び設計速度	1-7-2
2-5 横断面構成	1-7-3
2-5-1 車道及び車線	1-7-3
2-5-2 路肩	1-7-3
2-5-3 保護路肩	1-7-4
2-5-4 歩道	1-7-4
2-6 幾何構造	1-7-4
2-6-1 曲線半径	1-7-4
2-6-2 制動停止視距	1-7-4
2-6-3 合成勾配	1-7-4
2-6-4 曲線部の拡幅	1-7-4
2-7 待避所	1-7-5
3 選定基準フロー（案）	1-7-6

第8章 街路事業

1 街路事業	1-8-1
1-1 街路事業とは	1-8-1
1-2 街路事業と道路事業の区分	1-8-1
2 事業認可	1-8-3
2-1 事業認可の手順	1-8-3
2-2 その他参考資料	1-8-5
2-3 留意事項	1-8-5
2-3-1 事業認可	1-8-6
2-3-2 変更認可	1-8-7
2-3-3 都市計画法施行令第42条第2項に基づくお知らせの作成事例	1-8-9
2-3-4 関係権利者への通知文例	1-8-13
3 事業実施	1-8-14
3-1 実施にあたっての留意事項	1-8-14

目 次 【第2編 橋梁設計】

第1章 橋梁計画

1 総則	2-1-1
1-1 設計の基本理念	2-1-1
1-2 橋の概要	2-1-2
1-3 道路橋示方書の適用範囲について	2-1-7
1-4 橋梁計画について	2-1-7
1-4-1 設計（供用）期間の設定	2-1-7
1-4-2 橋梁計画の基本事項	2-1-7
1-5 橋梁設計業務について	2-1-8
1-5-1 予備設計	2-1-8
1-5-2 詳細設計	2-1-9
1-5-3 橋梁形式選定の比較	2-1-10
1-5-4 予備設計・詳細設計報告書の留意事項	2-1-16
1-5-5 橋種選定における打合せ事項	2-1-16
1-6 設計照査	2-1-21
1-6-1 概要	2-1-21
1-6-2 設計照査内容	2-1-21
2 調査編	2-1-24
2-1 地形・地質調査	2-1-24
2-1-1 資料調査	2-1-24
2-1-2 現地踏査	2-1-24
2-1-3 地形調査	2-1-24
2-1-4 地盤調査	2-1-25
2-1-5 調査深度等	2-1-26
2-1-6 土質試験	2-1-27
2-2 施工条件調査	2-1-29
2-2-1 地下埋設物調査	2-1-29
2-2-2 河川調査	2-1-29
2-2-3 鉄道調査及び港湾調査	2-1-29
2-2-4 周囲構造物の調査	2-1-29
2-2-5 仮設物を設計するための調査	2-1-29
2-2-6 周辺状況により施工中に観測を必要とする項目	2-1-30

2-2-7	周辺環境調査	2-1-30
3	協議編	2-1-31
3-1	一般	2-1-31
3-2	道路	2-1-32
3-3	鉄道	2-1-32
3-4	河川	2-1-33
4	設計編	2-1-40
4-1	計画一般	2-1-40
4-1-1	架橋位置	2-1-40
4-1-2	橋長の決定	2-1-40
4-1-3	連続構造の採用	2-1-41
4-1-4	跨道橋の桁下高さ	2-1-41
4-1-5	設計荷重の設定	2-1-41
4-1-6	斜面上の計画	2-1-42
4-1-7	橋台位置の決定例	2-1-44
4-2	基礎工	2-1-45
4-2-1	基礎構造形式の分類	2-1-45
4-2-2	杭基礎工法及び深礎基礎工法の特徴	2-1-46
4-2-3	杭基礎工法の選定	2-1-48
4-2-4	直接基礎	2-1-49
4-2-5	杭基礎	2-1-49
4-2-6	ケーソン基礎	2-1-50
4-2-7	斜面上の深礎基礎	2-1-50
4-2-8	鋼管矢板基礎	2-1-51
4-2-9	地中連続壁基礎	2-1-51
4-2-10	基礎構造形式の選定	2-1-51
4-2-11	基礎構造の近接施工	2-1-53
4-3	下部工	2-1-55
4-3-1	橋台及び橋脚形式の分類	2-1-55
4-3-2	橋台形式の選定	2-1-55
4-3-3	橋脚形式の選定	2-1-57
4-3-4	土圧	2-1-58
4-4	上部工	2-1-59
4-4-1	上部構造選定の基本方針	2-1-59

4-4-2	橫斷構成	2-1-68
4-4-3	橋面鋪裝	2-1-68
4-4-4	踏掛版	2-1-70

第2章 橋梁設計

1 許容応力度	2-2-1
1-1 許容応力度の割増し	2-2-1
1-2 許容応力度	2-2-1
1-2-1 基礎工	2-2-1
1-2-2 下部工	2-2-3
1-2-3 鋼橋	2-2-4
1-2-4 コンクリート橋	2-2-12
1-3 鉄筋の重ね継手長	2-2-14
2 基礎工	2-2-15
2-1 調査	2-2-15
2-1-1 土質調査計画フロー	2-2-15
2-1-2 調査項目と検討事項	2-2-16
2-2 設計上の区分	2-2-17
2-3 直接基礎	2-2-18
2-3-1 安定計算	2-2-18
2-4 杭基礎	2-2-18
2-4-1 水平方向の許容変位量	2-2-18
2-4-2 地盤から決まる杭の極限支持力	2-2-18
2-4-3 杭の最小中心間隔	2-2-19
2-4-4 斜杭の設計法	2-2-19
2-4-5 回転杭	2-2-19
2-4-6 PCウエル	2-2-19
2-4-7 軟弱粘性土地盤上に設置される橋脚の杭基礎の設計 (水平変位の制限を緩和する杭基礎)	2-2-19
2-4-8 偏荷重を受ける基礎	2-2-21
2-4-9 常時、暴風時およびレベル1地震時の設計	2-2-21
2-4-10 構造細目	2-2-23
2-4-11 杭頭結合部	2-2-32
2-5 深礎基礎(斜面上の深礎杭)	2-2-34
2-5-1 深礎杭の設計手法	2-2-34
2-5-2 支持層の選定と根入れ深さ	2-2-35
2-5-3 設計上の地盤面の設定	2-2-35
2-5-4 荷重分担	2-2-36
2-5-5 形状寸法及び配列	2-2-36

2-5-6	構造細目	2-2-37
2-5-7	フーチング端部補強鉄筋	2-2-39
2-5-8	橋脚と大口径深礎との接合部の配筋	2-2-40
2-5-9	土留め構造の設計	2-2-41
2-6	参考資料	2-2-44
2-6-1	深礎基礎ライナープレートの設置例(孔あき型)	2-2-44
2-6-2	深礎基礎グラウトパイプの設置例	2-2-44
2-6-3	杭頭補強構造及び数量	2-2-45
3	下部工	2-2-46
3-1	設計方針	2-2-46
3-1-1	適用	2-2-46
3-1-2	設計一般	2-2-46
3-1-3	設計時の留意点	2-2-46
3-2	設計荷重	2-2-46
3-2-1	活荷重の載荷方法	2-2-46
3-2-2	橋台に働く荷重の組合わせ	2-2-47
3-2-3	橋脚に働く荷重の組合わせ	2-2-47
3-2-4	橋台背面の壁面摩擦角	2-2-48
3-2-5	上部構造慣性力の作用位置	2-2-48
3-3	斜め橋台	2-2-49
3-4	耐久性の検討	2-2-49
3-4-1	一般	2-2-49
3-4-2	塩害に対する検討	2-2-49
3-5	構造細目	2-2-51
3-5-1	鉄筋のかぶり	2-2-51
3-5-2	片持ちばりの設計断面	2-2-52
3-5-3	均しコンクリート, 基礎材	2-2-53
3-5-4	下部構造物頂部縁端と支承縁端間の距離	2-2-54
3-5-5	下部構造橋座面の排水勾配	2-2-55
3-5-6	端部および中間支点上のジャッキアップについて	2-2-56
3-5-7	橋台の目地	2-2-57
3-5-8	橋台胸壁の設計	2-2-58
3-5-9	翼壁の設計	2-2-58
3-5-10	橋台背面アプローチ	2-2-58
3-5-11	橋台背面の排水処理	2-2-59
3-5-12	さや管構造の考え方と実施例	2-2-59

3-5-13	配筋細目	2-2-60
4	鋼橋	2-2-67
4-1	鋼橋の設計	2-2-67
4-1-1	適用	2-2-67
4-1-2	鋼材	2-2-68
4-1-3	板厚による鋼種選定標準	2-2-70
4-1-4	添接用鋼材及びジベル	2-2-70
4-1-5	使用鋼材の選定にあたっての留意事項	2-2-71
4-1-6	疲労設計	2-2-71
4-2	基本構造	2-2-73
4-2-1	桁配置	2-2-73
4-2-2	主桁の設計	2-2-73
4-2-3	対傾構・横桁の設計	2-2-76
4-2-4	横構の設計	2-2-76
4-2-5	ハンチ	2-2-77
4-2-6	桁端部の張出し長さ	2-2-79
4-2-7	支承取付け部の補強	2-2-79
4-2-8	部材の大きさ	2-2-80
4-2-9	端部及び中間支点上のジャキアップについて	2-2-80
4-2-10	鋼橋の桁端部構造	2-2-80
4-2-11	仮定剛度・仮定死荷重の照査	2-2-81
4-3	鉄筋コンクリート床版	2-2-82
4-3-1	設計曲げモーメント	2-2-83
4-3-2	床版厚	2-2-83
4-3-3	コンクリート	2-2-84
4-4	鋼床板	2-2-85
4-4-1	デッキプレート最小板厚	2-2-85
4-5	鋼橋塗装・防食	2-2-86
4-5-1	防食	2-2-87
4-5-2	新設塗装仕様	2-2-89
4-5-3	連結部の塗装仕様	2-2-92
4-5-4	新設橋の塗装面積の算出における留意事項	2-2-94
4-5-5	塗替え塗装仕様	2-2-95
4-5-6	耐候性鋼材	2-2-98
4-5-7	防食耐久性に考慮した構造	2-2-105
4-6	足場用吊金物	2-2-108

4-6-1	足場用吊金物	2-2-108
4-6-2	鉄筋コンクリート床版型枠吊金具	2-2-108
4-7	架設	2-2-109
5	PC橋	2-2-113
5-1	PC橋の設計	2-2-113
5-1-1	適用	2-2-113
5-1-2	コンクリート材料	2-2-113
5-1-3	PC鋼材・シーす	2-2-114
5-1-4	プレグラウトPC鋼材	2-2-114
5-1-5	PC定着工法	2-2-116
5-1-6	ケーブルシステム	2-2-117
5-1-7	PC橋の横締めについて	2-2-117
5-1-8	鉄筋の重ね継手長について	2-2-117
5-1-9	鉄筋のかぶり	2-2-117
5-1-10	PC工法の耐久性向上について	2-2-118
5-1-11	端部および中間点上のジャッキアップについて	2-2-120
5-2	ポステン桁及びプレテン桁の標準構造	2-2-121
5-2-1	ポステン桁及びプレテン桁の適用支間	2-2-121
5-2-2	ポステン桁及びプレテン桁の標準桁高	2-2-121
5-2-3	ポステン桁及びプレテン桁の標準桁配置	2-2-122
5-2-4	縦断勾配の処理	2-2-124
5-2-5	横断勾配の処理	2-2-126
5-2-6	横桁配置	2-2-128
5-2-7	地覆	2-2-128
5-2-8	端部PC鋼材について	2-2-130
5-2-9	横締めPC鋼材の定着部	2-2-130
5-2-10	グラウトホースのあと処理	2-2-132
5-2-11	コンクリート橋の桁端部構造	2-2-134
5-3	斜橋及びばち橋の標準構造	2-2-134
5-3-1	斜橋一般	2-2-134
5-3-2	斜橋の横桁及び横締め配置	2-2-135
5-3-3	斜橋の桁端構造	2-2-135
5-3-4	ばち橋一般	2-2-135
5-3-5	ばち橋の主桁配置	2-2-135
5-3-6	ばち橋の横桁配置	2-2-135

5-3-7	ばち橋の横桁及び横締め配置	2-2-135
5-4	直線桁を用いた曲線橋の標準構造	2-2-136
5-5	張出し工法による場所打連続桁橋（カンティレバー工法）	2-2-136
5-5-1	柱頭部の形状について	2-2-136
5-5-2	PC鋼材について	2-2-136
5-6	プレキャスト桁架設方式連続桁橋（連結桁）	2-2-137
5-6-1	連結桁の型式	2-2-137
5-6-2	適用の範囲	2-2-137
5-6-3	荷重	2-2-137
5-6-4	設計	2-2-137
5-6-5	連結部の構造	2-2-138
5-6-6	連結桁の配筋要領	2-2-141
5-6-7	連結部横桁の構造系	2-2-141
5-6-8	排水ますの配置	2-2-142
5-6-9	防水処理	2-2-142
5-7	合理化桁橋	2-2-142
5-7-1	工法の概要	2-2-142
5-7-2	参考図書	2-2-142
5-7-3	適用範囲	2-2-142
5-7-4	プレキャスト桁の橋種選定について（ $L \leq 45m$ ）	2-2-143
5-7-5	標準桁高の目安	2-2-144
5-8	架設	2-2-145
5-8-1	架設工法について	2-2-145
5-8-2	架設工法の適用に関する一般的な目安	2-2-146
5-9	足場工	2-2-147
6	床版橋	2-2-150
6-1	RCホロースラブ橋	2-2-150
6-1-1	主版の構造解析	2-2-150
6-1-2	張出しスラブの構造解析	2-2-150
6-1-3	支点部の解析	2-2-151
6-1-4	主版の構造細目	2-2-151
6-1-5	斜橋の場合の配筋方向	2-2-151
6-1-6	ガス圧接	2-2-151

7 上部諸構造物	2-2-152
7-1 地覆, 橋梁用防護柵及び防音壁	2-2-152
7-1-1 地覆	2-2-152
7-1-2 橋梁用防護柵	2-2-154
7-1-3 防護柵と幅員構成 (橋体幅)	2-2-156
7-1-4 落下物防止柵	2-2-157
7-1-5 コンクリート剥落防止対策	2-2-158
7-1-6 防音壁	2-2-159
7-2 親柱	2-2-159
7-3 橋名板	2-2-159
7-4 橋歴板	2-2-160
7-5 添架物	2-2-160
7-6 伸縮装置	2-2-162
7-7 支承	2-2-164
7-7-1 支承の種類及び形式	2-2-164
7-8 排水設備	2-2-165
7-8-1 排水装置	2-2-166
7-8-2 補強鉄筋	2-2-166
7-8-3 排水処理	2-2-167
7-8-4 排水性舗装 (参考)	2-2-167
7-9 検査路	2-2-168

第3章 耐震設計

1 耐震設計	2-3-1
1-1 適用	2-3-1
1-2 耐震設計の基本	2-3-2
1-2-1 耐震設計の基本.....	2-3-2
1-2-2 耐震設計一般	2-3-2
1-2-3 橋の重要度の区分.....	2-3-3
1-2-4 設計地震動と設計照査の関連.....	2-3-4
2 設計地震動	2-3-5
2-1 一般	2-3-5
2-2 レベル1地震動.....	2-3-7
2-3 レベル2地震動.....	2-3-7
2-4 地域別補正係数.....	2-3-7
2-5 耐震設計上の地盤種別.....	2-3-10
2-6 耐震設計上の地盤面.....	2-3-11
3 耐震性能の照査	2-3-13
3-1 一般	2-3-13
3-2 耐震設計の流れ.....	2-3-14
3-3 各耐震性能に対する橋の限界状態.....	2-3-15
3-3-1 耐震性能1に対する橋の限界状態.....	2-3-15
3-3-2 耐震性能2に対する橋の限界状態.....	2-3-15
3-3-3 耐震性能3に対する橋の限界状態.....	2-3-18
3-4 耐震性能の照査方法.....	2-3-19
3-5 上部構造の落下防止対策.....	2-3-20
4 静的照査法による耐震性能の照査方法	2-3-21
4-1 一般	2-3-21
4-2 レベル1地震動に対する耐震性能の照査.....	2-3-21
4-2-1 一般	2-3-21
4-2-2 耐震性能1の照査	2-3-21
4-3 レベル2地震動に対する耐震性能の照査.....	2-3-22
4-3-1 一般	2-3-22
4-3-2 耐震性能2又は耐震性能3の照査	2-3-23

5 動的照査法による耐震性能の照査方法	2-3-24
5-1 一般	2-3-24
5-2 動的解析に用いる地震動	2-3-24
5-3 解析モデル及び解析方法	2-3-24
5-3-1 解析方法	2-3-24
5-3-2 橋及び部材のモデル化	2-3-24
5-4 耐震性能の照査	2-3-25
6 免震設計	2-3-26
7 地震時に不安定となる地盤の影響	2-3-28
7-1 一般	2-3-28
7-2 耐震設計上ごく軟弱な土層又は橋に影響を与える液状化が生じると判定 された土層の取扱い	2-3-28
7-3 耐震設計上土質定数を低減させる土層とその扱い	2-3-30
7-4 液状化が生じる地盤上の橋台について	2-3-30
8 鉄筋コンクリート部材の構造	2-3-32
8-1 鉄筋コンクリート橋脚の塑性変形能を確保するための構造細目	2-3-32
8-2 道路橋示方書の改訂に伴う帯鉄筋配置方針について	2-3-35
9 支承部の照査	2-3-36
9-1 一般	2-3-36
9-2 支承部の照査	2-3-36
9-3 支承部の構造	2-3-38
10 落橋防止システム	2-3-39
10-1 一般	2-3-39
10-2 桁かかり長	2-3-42
10-3 落橋防止構造	2-3-44
10-4 横変位拘束構造	2-3-46

第4章 成果品及び参考資料

1 委託成果品	2-4-1
1-1 予備設計・詳細設計報告書の注意事項	2-4-1
1-2 橋梁全体一般図	2-4-1
1-3 成果品の照査	2-4-2
1-4 成果品の納品（電子納品）及び縮小図面	2-4-2
2 参考資料	2-4-3
2-1 橋梁設計に伴う数量算出	2-4-3
2-2 道路橋示方書の主要規定の変遷一覧表	2-4-3
2-3 橋梁実施計画表	2-4-8

目 次 【第3編 トンネル設計】

第1章 トンネル工（山岳トンネル）

1 総則	3-1-1
1-1 適用の範囲	3-1-1
2 設計・施工の流れ	3-1-3
3 トンネルの計画・調査	3-1-4
3-1 構造規格	3-1-4
3-2 トンネル位置の選定要素	3-1-4
3-3 調査	3-1-4
4 トンネルの設計	3-1-13
4-1 設計の手順	3-1-13
4-2 荷重等	3-1-14
4-3 線形計画	3-1-14
4-3-1 平面線形	3-1-14
4-3-2 縦断線形	3-1-15
4-4 トンネルの幅員	3-1-15
4-4-1 車道	3-1-15
4-4-2 歩道	3-1-15
4-5 併設トンネルおよび他構造物との間隔	3-1-15
4-6 トンネルに接続する道路のすり付け	3-1-15
4-7 非常駐車帯	3-1-16
4-8 中央帯開口部及び非常用施設	3-1-18
5 内空断面	3-1-20
5-1 内空断面設計の一般的事項	3-1-20
5-2 内空断面決定の諸条件	3-1-20
5-3 内空断面設定の考え方	3-1-22
6 地山分類	3-1-27
6-1 地山分類一般	3-1-27
6-2 地山分類	3-1-27

6-3	支保の緩和	3-1-27
7	掘削	3-1-34
7-1	掘削一般	3-1-34
7-2	掘削方式	3-1-34
7-3	掘削工法	3-1-34
7-4	加背割	3-1-36
7-5	坑内ずり運搬方式	3-1-36
8	支保工の設計	3-1-37
8-1	支保構造の一般	3-1-37
8-2	支保パターンの設定	3-1-38
8-3	吹付けコンクリート	3-1-42
8-4	ロックボルト	3-1-45
8-5	鋼製支保工	3-1-50
8-6	余掘, 余巻及び余吹	3-1-53
8-7	覆工	3-1-55
8-8	インバート	3-1-57
9	防・排水工の設計	3-1-59
9-1	防水工及び排水工一般	3-1-59
9-2	防水工	3-1-60
9-3	排水工	3-1-61
10	トンネル内の舗装	3-1-63
10-1	舗装	3-1-63
10-2	路盤	3-1-64
10-3	アスファルト混合物(コンポジット舗装)	3-1-65
10-4	歩道部の舗装	3-1-65
11	坑口部設計	3-1-66
11-1	坑口部一般	3-1-66
11-2	坑口部の支保構造	3-1-67
11-3	坑口部の補強鉄筋	3-1-68
11-4	坑口部の補強工法	3-1-69

12 坑門の設計	3-1-71
12-1 坑門の設計に当たりの留意事項	3-1-71
12-2 坑門の型式	3-1-71
12-3 坑門の構造設計	3-1-73
13 補助工法	3-1-77
13-1 概説	3-1-77
13-2 補助工法の選定	3-1-79
13-3 薬液注入による施工管理	3-1-82
14 観察・計測	3-1-83
14-1 観察・計測の目的	3-1-83
14-2 観察・計測の分類	3-1-83
14-3 計測A	3-1-85
14-4 計測B	3-1-86
15 その他の構造物の設計	3-1-87
15-1 避難連絡坑	3-1-87
15-2 諸設備のための箱抜き	3-1-89
16 トンネル照明設計	3-1-94
17 トンネル非常用設備	3-1-97
18 換気設備	3-1-102
18-1 換気設備の設計に用いる示方書等	3-1-102
18-2 調査・計画	3-1-102
18-2-1 一般	3-1-102
18-2-2 調査	3-1-102
18-2-3 設計に用いる交通量	3-1-103
18-2-4 換気の対象物質および濃度	3-1-103
18-2-5 換気施設の必要性の検討	3-1-104
19 内装工	3-1-105
19-1 概説	3-1-105
19-2 設置基準	3-1-105

19-3	設置範囲	3-1-106
19-4	内装材料	3-1-106
19-4-1	内装材料	3-1-106
19-4-2	内装取り付け方法	3-1-107
19-4-3	材料規格	3-1-108
20	標準的な工程表作成の考え方	3-1-110

第2章 参考資料

1 掘削機械（自由断面掘削機）	3-2-1
2 矢板工法	3-2-3
2-1 総則	3-2-3
2-2 トンネルの設計	3-2-3
2-3 内空断面の設計	3-2-3
2-3-1 内空断面の決定の諸条件	3-2-3
2-3-2 設計断面	3-2-4
2-4 地山分類	3-2-4
2-4-1 地山分類	3-2-4
2-5 掘削工法の選定	3-2-7
2-5-1 掘削工法の選定	3-2-7
2-5-2 標準加背割	3-2-8
2-5-3 導坑断面の設計	3-2-9
2-6 支保工の設計	3-2-11
2-6-1 支保工の設計	3-2-11
2-6-2 支保工の選定	3-2-11
2-6-3 鋼製支保工	3-2-11
2-7 余掘，余巻厚さについて	3-2-16
2-8 覆工の設計	3-2-17
2-8-1 覆工の形状	3-2-17
2-8-2 覆工の厚さ	3-2-19
2-8-3 補強方法	3-2-19
2-8-4 仮巻コンクリートについて	3-2-19
2-8-5 覆工背面の設計	3-2-20
2-9 坑門工	3-2-21
2-10 排水工	3-2-21
2-10-1 排水工	3-2-21
2-10-2 漏水処理工	3-2-21
2-10-3 湧水処理工	3-2-22
2-11 参考資料	3-2-24
3 留意事項	3-2-33
3-1 トンネル工事における粉じん対策	3-2-33
3-2 トンネル工事における騒音・振動対策	3-2-33

3-2-1	騒音・振動規制法による規制について	3-2-33
3-3	自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応	3-2-35
3-3-1	自然由来重金属等含有土の土壌汚染対策法上の位置づけ	3-2-35
3-3-2	山岳トンネルにおける留意事項	3-2-36
3-3-3	自然由来重金属等含有土への対応	3-2-38
3-4	工事用設備計画	3-2-40
4	様式集	3-2-43

目次 【第4編 維持修繕】

第1章 維持修繕一般

1 総則	4-1-1
1-1 設計の基本理念	4-1-1
2 舗装	4-1-2
2-1 舗装の維持修繕一般	4-1-2
2-1-1 目的	4-1-2
2-2 本県における路面の管理	4-1-2
2-3 調査（参考）	4-1-12
2-3-1 調査の種類	4-1-12
2-3-2 調査のフロー	4-1-12
2-3-3 路面調査	4-1-13
2-3-4 構造調査	4-1-15
2-4 評価（参考）	4-1-17
2-4-1 アスファルト舗装の評価	4-1-17
2-4-2 コンクリート舗装の評価	4-1-21
2-5 工法	4-1-28
2-5-1 工法の選定	4-1-28
2-5-2 アスファルト舗装の維持修繕工法	4-1-29
2-5-3 コンクリート舗装の修繕工法	4-1-31
2-5-4 路面切削工	4-1-33
2-5-5 打換え工	4-1-34
2-5-6 オーバーレイ	4-1-34
2-5-7 路上路盤再生工	4-1-36
2-5-8 排水性舗装工	4-1-40
2-5-9 舗装補修細部の処理	4-1-41
3 アスファルト流動防止対策	4-1-44
4 橋梁の維持補修	4-1-45
4-1 橋梁の点検・調査	4-1-45
4-2 橋梁の変状と健全性の診断、措置	4-1-45
4-3 橋梁の補修・補強（一般）	4-1-48
4-3-1 劣化機構の推定及び劣化因子	4-1-48

4-3-2	劣化現象と品質試験方法	4-1-50
4-4	コンクリート橋の補修及び補強	4-1-51
4-4-1	補修及び補強の概要	4-1-51
4-4-2	コンクリート橋の補修及び補強の設計	4-1-51
4-4-3	耐久性の回復あるいは向上を目的とした補修工法	4-1-55
4-4-4	力学的な性能の回復あるいは向上を目的とした補修・補強工法	4-1-62
4-5	鋼橋の補修および補強	4-1-66
4-5-1	鋼橋の補修設計の基本	4-1-66
4-5-2	鋼橋の主な補修工法	4-1-66
4-5-3	鋼橋の主な補強工法	4-1-70
5	トンネルの維持補修	4-1-72
5-1	トンネルの点検・調査	4-1-72
5-2	トンネルの変状と健全性の診断, 措置, 記録	4-1-73
5-3	トンネルの補修・補強 (一般)	4-1-75
5-3-1	トンネルの変状の原因及び特徴	4-1-75
5-3-2	トンネルの異常の原因及び特徴	4-1-82
5-4	トンネルの補修・補強	4-1-85
5-4-1	対策工の適用	4-1-85
5-4-2	対策工の選定	4-1-87
5-4-3	対策工の概要	4-1-93
6	横断歩道橋の点検	4-1-110
6-1	横断歩道橋の点検・調査	4-1-110
6-2	横断歩道橋の健全性の診断	4-1-110
7	門型標識等の点検	4-1-112
7-1	門型標識等の点検・調査	4-1-112
7-2	門型標識等の健全性の診断	4-1-112
8	防災	4-1-114
8-1	調査	4-1-114
8-2	防災カルテ記入例等	4-1-116
8-3	対策工	4-1-118

目 次 【第5編 道路付属物】

第1章 道路付属物

1 防護柵設置	5-1-1
1-1 適用基準	5-1-1
1-2 防護柵の定義（分類）	5-1-1
1-3 車両用防護柵	5-1-1
1-3-1 適用区間	5-1-1
1-3-2 形式の選定	5-1-2
1-3-3 ガードレール支柱背面土の検討の事例	5-1-4
1-4 歩行者自転車用柵	5-1-6
1-4-1 適用区間	5-1-6
1-4-2 形式の選定	5-1-6
1-5 景観に配慮した防護柵の整備ガイドラインの概要	5-1-8
1-5-1 ガイドラインの概要	5-1-8
1-5-2 道路の景観と防護柵に係る課題	5-1-8
1-5-3 景観的配慮の基本理念	5-1-8
1-5-4 景観に配慮した防護柵整備にあたっての留意事項	5-1-9
1-5-5 景観的な配慮が特に必要な地域・道路	5-1-10
2 道路標識設置	5-1-11
2-1 適用基準	5-1-11
2-2 道路標識の機能	5-1-11
2-2-1 案内標識	5-1-12
2-2-2 警戒標識	5-1-12
2-2-3 規制標識	5-1-12
2-2-4 指示標識	5-1-12
2-3 道路標識の設置体系	5-1-13
2-3-1 案内標識、案内の体系	5-1-13
2-4 道路標識の分類	5-1-15
2-5 公安委員会が所管する標識との関係	5-1-15
2-6 道路標識の設置計画	5-1-16
2-6-1 設置場所の選定	5-1-16
2-6-2 設置方式及びその選定	5-1-17
2-7 標示板・文字の寸法等	5-1-25

2-7-1	標示板及び文字等の基本寸法	5-1-25
2-7-2	拡大率	5-1-25
2-8	表示内容の基本的な考え方	5-1-29
2-8-1	シンボル表記について	5-1-29
2-8-2	外国語表記	5-1-31
2-8-3	その他	5-1-33
2-9	路線番号標識	5-1-33
2-10	現在地の表示	5-1-33
3	道路照明施設設置	5-1-34
3-1	適用基準	5-1-34
3-2	改訂の要点	5-1-34
3-3	設置場所	5-1-34
4	区画線設置	5-1-36
4-1	適用基準	5-1-36
4-2	区画線の種類	5-1-36
4-3	区画線の設置方法	5-1-37
4-4	車線境界線と車道外側の設置位置	5-1-38
4-5	高速道路等の車線境界線	5-1-38
5	道路情報提供装置	5-1-39
5-1	適用基準	5-1-39
5-2	目的	5-1-39
5-3	道路情報板の種類	5-1-39
5-4	配置計画の方針	5-1-40
5-5	設置場所	5-1-41
5-6	情報提供内容	5-1-41
5-7	表示板の機能	5-1-42
5-8	標示板の設置場所(例)	5-1-43
6	立体横断施設	5-1-44
6-1	適用基準	5-1-44
6-2	立体横断施設の幅	5-1-44
7	自動車駐車場	5-1-45
7-1	適用基準	5-1-45

7-2	自動車駐車場の分類	5-1-45
8	その他の付属物	5-1-46
8-1	視線誘導標の設置	5-1-46
8-1-1	設置区間	5-1-46
8-1-2	設置間隔	5-1-48
8-1-3	設置位置及び設置高さ	5-1-50
8-1-4	設置方法	5-1-50
8-2	道路反射鏡の設置	5-1-50
8-3	視覚障害者誘導用ブロックの設置	5-1-50
8-3-1	設置対象道路	5-1-50
8-3-2	色彩	5-1-50
8-4	距離標設置	5-1-51
8-5	自転車駐車場	5-1-51
8-6	バス停のベンチ及び上屋	5-1-51
9	道路付属物の基礎について	5-1-52
9-1	適用基準	5-1-52
9-2	基礎の形状	5-1-52
9-3	道路付属物基礎の運用について	5-1-55
9-4	標識の基礎の設計風速	5-1-58

目 次 【第6編 参考資料】

第1章 参考資料

1 台帳	6-1-1
1-1 橋梁台帳	6-1-1
1-2 トンネル台帳	6-1-14
1-3 標識台帳	6-1-23
1-4 情報提供装置台帳	6-1-30
1-5 道路照明台帳	6-1-37
1-6 舗装台帳	6-1-44
2 条例等	6-1-47
2-1 県道の構造の技術的基準等を定める条例	6-1-47
2-2 移動等円滑化のために必要な県道の構造に関する基準を定める条例 ..	6-1-68
2-3 県道に設ける道路標識の寸法を定める条例	6-1-77
3 道路用語集	6-1-80
3-1 共通	6-1-80
3-2 橋梁	6-1-87
3-3 トンネル	6-1-100
3-4 舗装	6-1-103
3-5 その他	6-1-106

